令和５年度　研究推進計画

１　研究主題

自分の考えを生き生きと表現し、学び合う子どもの育成

２　研究主題設定にあたって

（１）児童の実態から

本校の子どもたちは、小さな頃から気心の知れた友達が多く、協力したり助け合ったりしながら活動することができている。明るく素直で、清掃や集会を通して他学年とも仲良く活動し、学校行事や全校作業なども一生懸命取り組むことができる。

学習に対しては、与えられた課題をこつこつと最後まで取り組むことができる児童が多い。問題を解決するためのペアやグループでの話合い活動では協力して取り組み、ホワイトボードやタブレットなどを活用し、自分たちの考えを出し合うことができる。しかし、全体の場や公の場で自分の考えを話したり、ペアやグループで話し合ったことを発表したりすることへ消極的な態度が見られる。他の友達の考えや思いは聞いてみたいが、間違うことをはずかしがったり、誰かがやってくれるだろうと友達に任せたりする場面が見られた。その一方、令和４年度の学習アンケートでは、「勉強が楽しい」、「学習がよく分かる」、「役に立つように学習したい」というポイントが４点満点中３･５と高い数値となっており、必要感のある対話場面を設定し、ペアやグループでの話合いを積み重ねてきたことが児童の学習意欲を高める上で効果的であったと考える。生涯にわたる「主体的･対話的で深い学び」を育成するためにも「聞く力」「話す力」を身に付け、他者と協力して課題を解決し、自分の考えを発信していけるような表現力を育成していきたい。

（２）学校教育目標とこれまでの取組から

本校では、学校教育目標に「夢に向かって　本気でチャレンジ！　笑顔の花さく南っ子」を掲げ「一人一人を生かす授業の工夫と確かな学びの保障（まなび）」「思いやりを育む教育活動の充実（こころ）」「最後までやり抜く体験活動の充実（からだ）」を目指して教育活動を推進している。

これまで、学習の基本となる「聞く」「話す」を日常的に意識した指導を通して、「学ぶ意欲を高める導入の工夫」「対話して学ぶ指導の工夫」「学びをつなぐ振り返りの工夫」を重点として研究を進め、個々の表現する力、表現する意欲を高めることを目指してきた。その結果、問題解決に向けて見通しをもって取り組む姿やペアやグループで話し合って解決する姿、振り返り活動にスムーズに取り組む姿が見られるようになった。また、必要感のある課題設定や話合いの場を設けることで、児童の追究意欲の高まりが感じられた。さらに、目的意識をもった話合いができるように、自己決定の場を位置づけた授業に取り組むことで、自分の考えを伝えようとする姿が見られた。しかし、形式的に話合いの場を設定したことにより、対話が深い学びへと結びつかない場面もあり、本時のねらいに即した対話の方法については引き続き模索してく必要がある。また、「生き生きと表現し学び合う」子どもたちの姿を具体化し、教師間で共通理解を図ることで、ゴールを意識した授業実践を行うことができるのではないかと考える。そこで、各教科の見方･考え方を引き出す発問や場を工夫し、対話の具体的な姿や手立てに重点を置き、深い学びの実現を目指し研究していきたいと考える。

これらのことから、課題に対して自分事として捉え、自分の考えをしっかりもち、意欲的に考えを伝え合うことで、自分の考えを広げ深め、考えをつなげる力を育成していきたいと考え、今年度も研究主題「自分の考えを生き生きと表現し、学び合う子どもの育成」を設定した。

3　研究の仮説

子どもが取り組みたいと思う導入の工夫や、主体的、対話的で必然性のある学び合いの場を展開し、課題解決の過程において価値付けを図ることで、学習への見通しをもち、問題解決に向け生き生きと自分の考えを表現する力を身に付けていくのではないか。

4　目指す子どもの姿

〇課題に対し自分事としてとらえ、自分の考えをもち、生き生きと表現する子ども
〇問題解決に向けて、友達と共に主体的・対話的に学ぶ子ども
〇意欲的に学び、自己の考えを広げ深め、自己の変容や成長を実感できる子ども

5　研究の重点と具体的施策

（1）学ぶ意欲を高める導入の工夫「子どもが本気で考えたくなる課題づくり」
・具体物やICTの活用で好奇心をくすぐる導入や単元構成をする。
・生活との関わりや必要感のある課題の設定で追究意欲を高める。
・子どもの問いを基に学習計画を立て、単元のゴールを明確化する。

（2）対話して学ぶ指導の工夫「子どもが主役の全員参加の課題の追究」
・一人一人が自分の考えをもち、自己決定の場を設ける。
・視点を明確にし、対話したくなるしかけを意識した話合いの場をもつ。
・児童が主体的に課題を追究できるよう教師の発話量を最小限に留め、発問を精選する。
・ICT機器を効果的に活用し、意欲的に対話に参加できる環境を整える。
・考えを引き出し、広げたり深めたりする揺さぶり発問の工夫や場の設定をする。

（3）学びをつなぐ振り返りの工夫「主体性のある学び」
・子どもの言葉での「まとめ」をする。
・本時での新しい学び、自分や友達のよい考え、疑問、生活との関わりなど、振り返りの視点を明確にする。
・対話によって課題が解決できたことを価値付けし、次時の意欲へと繋げる
・次への問いが生まれるふり返りを工夫する。
・学習の成果を確かめ、個の変容や成長に気付かせるようにする。